

特253

60

宣部編 之日本社

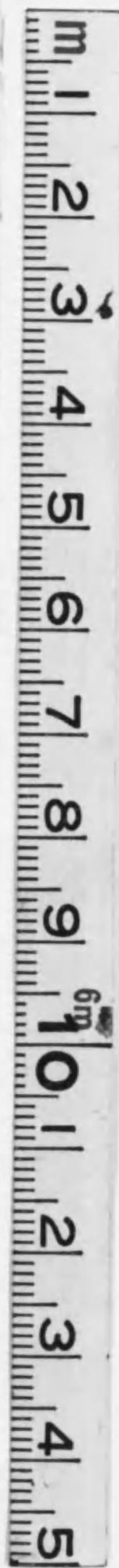
必ず儲る株の研究

# 戦争と財産

(第一篇)

即戦速決の成功  
 支那事變の重要性  
 支那事變と  
 インフレーション  
 日清日露歐洲大戦と株式

長期抗戦の失敗  
 我無敵海軍三國排撃  
 戦争と財産と株式  
 如何な株が儲かるか



# 始



# 經濟之日本社株式通信

一週二回發行  
一ヶ月料金五圓

本社の株式通信は野線や、觀測と異なり先づ根本的に會社の内容利益の配當或は増資等有ゆる材料を調査し是れに政治外交、財界等の諸材料を加味し、其他一般市場人氣の向背を斟酌して株價を算出し市場の動向性を速報するを以て極めて確實性を有する通信なれば是を参考材料として投資せらるゝ事は勝利の根本なりと信ず

## 目次

- 一、皇軍即戰速決作戰の大成功……………一
- 二、抗日長期戦争は遂に不可能を暴露す……………一六
- 三、支那事變の重大意義と日本の飛躍發展……………一〇
- 四、北支那の原料資源の重大性……………一〇
- 五、三國介入排撃と我無敵海軍……………一五
- 六、戰時財政毫も憂ひなし……………一八
- 七、支那事變とインフレーション……………二二
- 八、戦争とインフレーションと財産……………二五
- 九、戦争とインフレーションと株式……………二七



九、日清戦争と株式相場	二九
一〇、日露戦争と株式相場	三〇
一一、歐洲戦争と株式相場	三三
一二、戦争と株式相場の歩み	三五
一三、戦争と株式成金ロスチャイルドと鈴木	三七
一四、大に株式に投資せよ	三九
一五、戦争相場は東株が最先驅である	四一
一六、事變後勃發する事業と儲かる株は何か、日立製作株、新潟鐵工株、池貝鐵工株	四三
一七、製鐵、造船、輕金屬株等は買つて置けば必ず儲かる	四五

### ◇皇軍即戰速決作戰の大成功

皇軍の大膽なる即戰速決の策戦は豫期以上の成功を示し、長期抗日戦に於て必勝を安信した國民政府をして、今や警愕措く處を知らざる窮態を曝露せしむるに至つた、事變勃發以來我國が飽迄不擴大方針を執つて約一ヶ月間も足踏をして居つたのと、四十年來の暴雨が北支那一體を襲ふて、河川の氾濫のために、到る處、湖沼、泥溝と化したために、我皇軍の行動は甚だしく阻害されたにも拘らず、外國武官をして、斯の如き驚く可き惡條件の下に、破竹の如き勢を以て連戰、連勝した勇敢決死の行動は、眞に世界に誇る可きものであると舌を捲いて嘆賞せしめた程の猛烈果敢な戦闘を行ひ、今や敵軍を驅逐して、京漢線の部隊は早くも黄河を扼するに至つた、一方京綏線方面の部隊は南口、八達嶺の不落の要害を蹴散らし、一舉に張家口を占領

し、天馬空を行くの勢を以て大同を手中に收め、急追、急撃追に山西省の首府大原、京漢線南下部の部隊の一部と相呼應して大原を陥入れ、南下して隴海線を確保し、津浦線方面に策戦せる部隊が、山東省を確保して更に南進隴海線上に進出するを待て、遠く漢口及び南京の咽喉浦口に殺到し、上海附近に於ける敵軍の潰滅と相前後し、而撃、背打の最後の、徹底的の姿勢を執つて居る事は我軍の極めて放膽、雄大なる策戦の大成功と云はなければならぬので有る、一方内蒙軍は關東軍と共同策戦の下に、土倫、張北より進出し、破竹の勢を以て張家口より綏遠に進撃し、包頭を馬蹄に蹂躪して五原を占據するの行動を起し、進んで遠く甘肅省の蘭州を占據し、包頭占據以來内蒙古獨立運動に澎湃として共鳴せる西部南蒙各旗盟の軍を糾合して、完全に所謂蘇、支聯絡路線で有る赤色ルートを遮断して、支那の蘇聯に對する援助の希望を事實に於て實行不可能たらしめんとして居る。

成吉思汗王朝没落以後の蒙古族は、漢民族に壓迫せられて北方に迫込まれ僅に民族的餘喘を保つに過ぎ無かつたので有るが、今や宿昔の壯圖成つて全内蒙一致團結の狼煙は擧げられ、完全なる獨立は目前に迫つて居る。

斯の如き被壓迫民族たる内蒙の獨立運動は、周圍の被壓迫民族に對して強烈なる刺戟を與へずには居られない、宗教を否認する赤色蘇聯に對し、極端なる反抗と憎惡を持つて居る、新疆省の回教徒及び寧夏省、甘肅省、陝西省に於ける約二千萬人の回教徒が、數百年間壓迫と搾取に極端に苦しめられた漢民族に對し宿怨の志を果すべく、劍戟を執つて起たんとするも既に目前に迫りつゝ有るのである、斯くして逐次支那共產軍の根據地は覆滅せられ、支那事變の終熄後に於ては支那の共產禍は完全に拂拭せられるで有らう事は、東洋平和の爲めに、大いに喜ぶべき事と謂はなければならぬので有る。

今回の事變に於て、我皇軍の進撃が極めて快速で有る事は素より我皇軍の精銳無比なるに據る處であるけれ共、近代兵器の進歩、發達に依る事も大いに見逃さない處である、飛行機、戦車、殊に自動車の利用に依る部隊の急速なる移動、兵站線の連絡には非常な効果を擧げて居る、又飛行機の利用に依り敵の急逐、搜索、味方部隊の掩護、鐵道を利用する装甲列車は特に追撃部隊の進軍に偉大なる効果を奏して居る、故に是等の近代的戰鬥兵器を利用し得なかつた以前の戰鬥に比較すれば、従前の五百哩の進軍も、今日に於ては其二分の一或は三分の一に

も足らぬ時日を以て遂行する事が出来るのである、支那は國內の廣大なる事を以て、皇軍が長驅して、支那奥地の心臟部である漢口武昌、或は南京の對岸浦口等に進撃が出来まいと考へて居つたら、其れこそ近代戰の精華と、我皇軍の精銳無比と、雄大にして且つ大膽なる策戰を知らざるものと云はなければならぬ。

我皇軍が破竹の勢を以て隴海線一帶を占據するのは最早や時日の問題である、隴海線を占據すれば、隴海線と京漢線と交叉する河南省の鄭州、津浦線と隴海線と交叉する徐州は共々重要な第二の據點となり、京漢、津浦兩線に加ふるに隴海線の起點たる海州よりの輸送及び黃河を利用する物資の輸送等に依つて、從來よりも軍の行動上至大の利便を與へる事は言ふ迄も無い處である。

斯の如く隴海線の占據は我皇軍第二段の策戰に至大なる便宜を與へるものであつて、若し第二の據點である鄭州、徐州より漢口、浦口を指して進撃するとせば、距離の點から云つても、著しく戰意の消滅せる支那軍の現状から觀察すれば、恐らくは皇軍が北京より黃河、河畔を進出に要したる時日より、尙ほ短時日で進出する事が信ずるのである。

假りに皇軍一度漢口を占據せんか、支那が唯一の兵器食糧物資の輸送線と頼じ、粵漢線終點武昌より揚子江を下つて上海方面津浦線戰線方面に對する輸送路は遮斷せられ、茲に戰鬪の繼續は絶對不可能とならざるを得ないのである。更に皇軍が是と相前後して浦口を占領した、假定すれば、南京は皇軍に砲撃せられて潰滅の外無く、食糧又供給を絶つて饑餓に陥入り、茲に城下の盟を爲さなければならぬ事は言ふ迄、無い事である。南支に於ける廣東、復州、汕頭、杭州の如き重要都市を占據する事は極めて容易であり、支那の財界を攪亂し、支那の戰意を失はしむるには多大の効果がある、然し是等の軍事行動は徹底的でなく、敵の死命を制するに足らない、故に我が皇軍が兵力を分散せず、上海を除いて、京漢、津浦兩線の策戰に最も重點を措いて居るのは、以上述べた通り漢口と浦口を目的として、南京政府を徹底的に膺懲するの策戰であつて、如何に皇軍が重大なる決意を有して居るか、伺ひ知れやう、而して此策戰の目的を達するの二三ヶ月の後で有つて、蘇聯又は第三國が我國に對して挑戰せざる限り支那の云ふが如き長期戰爭等あり得る譯は無い此點は特に刮目注意するの必要があると思ふ。

上海大捷後九ヶ國條約をブラツセルに開催して頻りに策動して居る英、米兩國も斷乎たる決

意の我が國に對しては如何共致方なく結局ズル／＼と引廻はして傍觀するより仕方がない状態である。

### ◇抗日長期戰爭は遂に不可能を暴露す

滿洲事變以來我國には不幸な異變が勃發した、五・一五事件、〇〇事件、三月事件、二二六事件等々殊に政黨と〇〇、〇〇と〇〇〇〇等殆んど枚舉に暇ない位で有つた、是れを外國人が見たらば恐らくは我が帝國が大爆發前の火山の噴煙にも見えたで有らう事は勿論である。知日派として最も日本を理解してゐる筈の汪兆銘さへ、中國も日本の様になつては困ると云つたと云ふ事は、餘りにも有名な話であるが、汪兆銘を除く他の要人に至つては勿論、言外で有つたで有らうと思ふ。支那の新聞の約半分位は日本記事を満載して居つたが、其支那新聞を読むと日本人自身が厭になる程日本國內には全く〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇を思はせる様な不愉快な問題が起つて居つた、遺棄状態であつたから、支那政府の要人は勿論、インテリ階級などは日本は如何な

る事があつても支那に挑戦し得ないと自信して居つた、「日本は今や軍部、政黨が對立し國論統一する處なく、各々對立して不統一紊亂である、又經濟的には極めて貧弱で大規模の策戦が出来ない、日本軍は日露戰爭以來戰爭を遣つた事は無いから案外弱い、是に比較すれば支那の軍隊は民國革命以來百戰練磨の精兵であるから到底日本軍は支那軍に勝利を得る事は出来ない」と自惚れて居つた、殊に日本の外交は全然孤立であるから、日支相戦は、列國の援助に依つて日本を苦しめて遣らうと考へて居つた、最も支那を遺棄に考へさせたのは日本の方も悪かつた、英國の鼻息を伺ふてはカメレオンの様 變色する〇〇派一派の〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇、林内閣の無能外交は金儲け以外に眼の無い會社屋を經濟使節に派遣して支那人に馬鹿にされたり、冀察政權に對する態度の動搖、冀東政府の不安等々で有つた、然し要人の中でも蔣介石や何應欽、汪兆銘などは日本と戰つては到底勝利の覺えない事は克く知つて居つた、いや主戦派の馮玉祥でさへも、漢口から日本人が引揚けると聞いて一寸青くなつたさうである、然し時は勢ひである、永年の抗日侮日を支那自身が收獲せなければならぬ時が來たのである。

皇軍は怒れる獅子の如く猛然として起つた、精銳なる空軍の猛激に、支那空軍は手も足も出

す無残にも蹂躪せられ、北支に於ては皇軍の爲めに數十萬の精兵と稱する支那軍が、猛虎に襲はれたる羊群の如く、潰滅混亂し快速作戦は恰も疾風の枯葉を捲くが如く、猛撃、追撃、殆んど敵軍は戦意を喪失して仕舞つた。

我海軍の支那沿岸封鎖は支那の財政に致命的の打撃を與へた、支那政府の財源は海關稅が最も主要なるものであるに拘はらず、封鎖に依つて貿易は激減して、關稅は殆んど四分の一に減つた、第二は統稅である、是は物資の内地移輸出稅であるが、是とて戰爭の爲めに鐵道は軍用に供され、戰亂匪賊 危險から殆んど停止狀態であるので、收入は望み無くなつて仕舞つた。第三は鹽稅である、支那四億の人口に供給する鹽は南支と北支であるが、南支は戰爭の混亂で生産が激減し、北支の長蘆鹽は内地に輸送が出来ないので鹽價 暴騰したのが、鹽の全然供給不能から河南省や安徽省では鹽の爲めに暴動さへ起らんとしつゝあるのである。

困難は是に止まらない、肝腎の救國公債が殆んど賣れない、南洋の華僑も一向公債を引受けて呉れない、それに、暹羅から輸入の米も杜絶して米價は暴騰するに至つた、一方外國に輸出する農産物や、農産加工品も殆んど輸出不可能とあり、賣行殆んど停止の爲めに農民は生活苦の

ドン底に陥入つて居るのであるが、今少しく戰爭が永引けば到る處暴動が起らんとする形勢にあるのである。

元來支那人は多分に附和雷同と暴動性を有して居る、抗日侮日に狂奔するのも、此民族性が然らしむるのであつて、戰爭に依る困難が今後著しく壓力を加へるに従つて必然的起つて來るであらう。抗日侮日が一轉して國民政府を怨嗟する 打倒國民政府の暴動が起らないと誰れが保證し得やう、長髮賊の亂も、義和團事件 南京事件も、四川省の邦人殺害事件も、支那人の暴動性 立派に證明して居る、今や國民政府が進退谷まつて居る事は事實の問題である、英、米兩國に頻りに哀訴嘆願して聯盟や九ヶ國會議に依つて戰爭の停止を哀願して居るのは最早や勝算が無くなつた證據である、然し我國としては支那が徹底的に悔悟し、眞に東洋永遠の平和の爲めに日支提携の必要を自覺する迄は手を緩めてはならない、我皇軍が雄大放膽なる作戦を執つて、一路漢口、南京を指して進撃の態勢を執つて居るのも根本は茲にあると信するのである、國民政府の長期抗日の夢は最早や破れた唯彼等は面子の上からも、行懸り上からも暫くは好むと好まざるとに拘はらず戰爭を續けなければなるまい、共產派の稱するゲリラ戦法の如き

は、滿洲の様な森林無人の地帯に於てこそ、百人二百人の匪賊が蠢動する餘地こそあれ、飛行機、無電、快速戦車の様な近代兵器を使用する皇軍の後方を擾亂するが如き事は殆んど不可能である、若し彼等が古臭いゲリラ戦法で遣つて来る様な事があれば、それこそ飛んで火に入るの夏の蟲であつて、一網打盡にする許りであつて言ふ可くして行はれるには餘りに幼稚千萬と云ふの外に無い。

斯の如くして、國民政府要人の長期抗日戦は次ぎから次ぎへと幻滅の悲哀に陥入つて行くので、今や彼等は南京空襲爆撃下の地下室に於て連日鳩首協議して居るのである。然し今にして彼等に回天起地の妙策が無い限り、皇軍の前に宛を脱かなければならないのは既定の事實でも有り、又長い時期の問題でも無い、更めて云ふ長期抗日戦争は絶対不可能の囂言であると。

### ◆支那事變の重大意義と日本の飛躍發展

### ◆北支那の原料資源の重大性

(露) エム、アレンス

蘇聯世界經濟及び世界政治研究機關雜誌ミロウオーエ、ハジャライストウオ、イ、ミ  
ロワーヤポリーチカ誌より要點を抄譯するものなり

「一九三三年五月塘沽に於て日支休戦協定が締結された時、此協定が日本が益々支那に進出する爲めの飛込臺に過ぎ無い事は何人も疑はない處であつた、果し此協定が締結より二ヶ年を経ざるに、日本の支那侵略は着々進行し、今や其要求は北支那、内蒙の廣大なる地域に亘つて居る、日本は是等の地方の占領を以て中支、南支進出の前提と爲し、合せて外蒙蘇聯への戦争準備の重要な前提となして居るのである、畢竟北支並に内蒙を日本軍の爲め直接軍事上の足場として居るのみならず、日本に不足する原料資源の問題を解決せんとして居るのである。日本は滿洲を其掌中に收めたけれ共、滿洲資源開發のためには莫大なる資金を要するのみならず、多大の長時日を要する、此事情は日本が準備して居る、大戦争を不可能ならしむるものである。

そこで北支那を占領して滿洲に於て不足せる處の棉花、羊毛、優良鐵礦、石炭、石油、鹽、



羊毛等の原料を日本に輸入し、北支那に於ける約九千萬人の人口に對し日本の物資を獨占的に供給し、日本の財政、經濟の強固擴大を圖らんとして居るのである。

北支那は農工資源は極めて豊富なる地域であるが、特に石炭は豊富である、滿洲の石炭は四十五億噸であるが、北支三省（河北、山東、山西）の石炭は實に千三百億噸であつて、支那全部の五割以上を占めて居るのである、又北支は鐵礦の産地であつて、是又全支那の約四割が察哈爾省に集中して居り、山西省には現今採取高は多額に達して居ないが、大油田が発見されるであらう。滿洲に於ける棉花は僅に一萬五千噸に過ぎないので、日本の増需要額六十萬噸に對し、殆んど問題にならない、北支那三省に於ける棉花は二十八萬六千噸であるが、日本が若し是が改良と増加に努力するならば日本全需要を供給し得るに至るであらうと』

近代國家が原料資源を國外に仰ぐ事無く、獨立自營せんとすれば鐵、銅、棉花、石油、ゴム、羊毛等約二十三種の原料品を自給するの必要があると云はれて居る、英、米、佛の如きは大體其大部分を持つて居るが、日、獨、伊の如きは僅に三を持つに過ぎないのであつて、所謂る持たざる貧乏國である、是れを我國の狀態に看れば、綿製品に於て世界最大の優位を占めて居る

けれ共、其原料たる棉花は僅に朝鮮に産するのみで、全需要量の九牛の一毛だに過ぎないのであつて、殆んど全部を米國及び印度より仰いで居るのである、而して其棉花輸入量は年々約八億圓内外の巨額に達して居る、次に鐵であるが、鐵は内地には鐵礦石が不足であつて、礦石は海外より輸入し尙、鐵材をも大部分を輸入に待つ様な狀況であり、是又概して年々二億圓位の輸入となつて居る、其他羊毛は濠洲より約一億五、六千萬圓内外、又化學工業品の重要原料品たる鹽の如きは遠く、エチオピア、ソマリランドから輸入を仰いで居る譯であつて、殊に歐洲大戰當時に於て佛蘭西當局者が石油の一滴は血の一滴に等しいと叫んだ位、戰時に重要な石油は、内地に於て僅に需要の一角を充たすに過ぎ無い、斯の如く戰時に於ても平時に於ても必要不可欠の原料資源は殆んど海外の輸入に依るのであつて、日本が大規模の作戰の必要に迫られた場合に、外國よりの輸入不可能の場合、或は正貨の缺乏に依る輸入不能となつたならば、是れこそ眞に國家に執ては致命的打撃と云はなければならぬので、然るに何と云ふ幸福か、北支に於ては日本が咽喉から手の出る位慾しい原料品が在るのである、此意味に於て今回の支那事變こそ眞に重大なる意義があり、北支那の資源開發こそ日本を飛躍に發展せしむるものと云

つて差支ないのである。

假りに日本が全力を擧げて北支の棉花を増殖改良して輸入すれば斷然需要量を満たし、チャハル省の鐵、山西省の石炭を液化し、内蒙の羊毛を改良、北支那の長蘆鹽、即ち鹽の増産を圖れば殆んど輸入を海外に仰ぐの必要無く、棉花を始めザット見積つて約十二三億圓の輸入を撃退し、殆んど國家に必要な大部分の原料、資源を確保する事となるから一轉して、英、米、佛、蘇の如き原料富有國と比肩して毫も劣る處なきに至る事は間違ひ無い處である。又北支那五省のみで人口は約九千萬人即ち滿洲國の約三倍に達するのであるから、是等北支那から、原料を獲ると同時に、良質安價の貨物を輸出せば、是を滿洲國の一人當り約十圓の貿易額に比し、北支那に十億圓内外の物資を供給し得るのである、殊に内蒙一帯、及び内蒙より支那の西部方面に手を延ばせば我輸出の盛況は頗る期待する事が出来やう。

斯の如く北支の開発に成功するとせば茲に始めて眞の富國強兵の日本が出現するのであつて最早英、米其敵で無く、蘇聯と雖も日本に對して挑戦し來る如き事は有り得ないので有る。斯様な意味に於て今回の支那事變こそ、從來何れの戦争に比較して最も重大なる意義を持つもの

であつて、所謂最後のゴール、インに這入つたものである、故に國民は如何なる障害と雖も之を突破して戦勝の効果を擧げ世界無敵の日本を作り上げなければならぬのである。

### ◇三國介入排撃と我無敵海軍

我國が不擴大方針を執つて居る間は、英國は黙つて注視して居つた、然し愈々支那側の挑戦に應じて、斷乎大規模の策戦を樹て、北支に上海に進撃を開始するや、英國は俄然として強硬なる反對の態度を執り、英國系通信機關を總動員して、支那製のデマを世界到る處に宣傳し、反日運動を起すと共に、米、佛等に頻りに働きかけ、米國大統領ルーズベルトをして追に九ヶ國條約を開かしむる事に成功した英國は支那が敗戦の結果、國民黨政府が潰滅すれば自國の權益が崩壊し、それこそ英國はシンガポールに退却しなければならぬ事を克く知つて居るのみならず日本をして戦勝の効果を充分に擧げしむる事は到底忍び得ない處であるから、何とかして是を最少限度に喰ひ止め度いと狂奔して居るのである、今後彼が如何なる行動を執るにせよ

唯一の牽制を頼みにする蘇聯も到底日本に對して、挑戦するが如きは思ひもよらぬ事であり、米國も、假令日本が支那に於て勢力範圍を益々擴大するとも、自國の權益が殆んど云ふに足らぬものである以上、日本に對して敵對行爲に出て、英國の爲めに火中の栗を拾ふが如き事は絶對に望めない處であるから、彼は煩悶・懊惱を極めて居る、獨・伊兩國の日本に對する準同盟國的好意は英國をして充分自重せしむ丈けの強い刺戟を與へて居る、假りに日本が徹底的に支那を遣付け、戰勝の効果を充分に獲得しても武力干涉等は思ひも寄らぬ處である、我海軍は倫敦條約に依つて海軍力を劣勢に制限されて以來黙々として航空の整備に血の出る様な努力をした、其結果が航空機の最優秀なる事と、其技術に於ても列強に比し毫も遜色なき事を如實に示したのである、〇〇航空根據地より數千キロの海上を越へて、南京、漢口、南昌、廣東と到る處恐る可き空襲の猛威を發揮し、英、米、佛、蘇等をして今更乍ら驚嘆せしめた、而も海軍は斷乎として沿岸の交通遮斷を斷行して支那に致命的な打撃を與へて、武器・薬を密輸入する策源地、香港に執つて不可分關係にある粵漢鐵道は愚か、廣九鐵道をも爆撃して、狡猾なる英國の心膽を寒からしめ、香港の附近にある、ブラタス島を占領し、萬一の場合に備へるの態勢を

執つた事は、英國をして日本に對する囑咐政策が最早や毫も役に立たない事を知らしめた、斯の如く帝國海軍が正義の指す處千萬人も吾れ行かんの氣概を示して、列強を睥睨して居るのは要するに我無敵海軍の絶對的強力の賜である、軍機に關する事は一切是を公表するの自由を持たないから、之を知らしむるに由ないけれ共、我海軍はワシントン條約廢止以來實に凡ゆる智能を絞つて海軍力の充實に努力した、否、其以前からも神算鬼謀に依つて行はれた、〇〇〇〇〇〇の方法〇〇〇〇〇〇〇〇となり主力艦に於ては稍劣勢であるが、巡洋艦、驅逐艦、潜水艦に於ても、〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇の結果極東に於て英國や米國と闘つても決して絶對に負け無い、否徹底的に殲滅するだけの確信を以て居るのである、其鐵の如き確信は、遣つて來るなら何時でも來いと云ふ我が海軍の強硬態度となつて居るのであつて、三國介入の如き事は絶對に之を排撃し得るのである。支那事變に關する限り對外關係は毫も心配するの必要は無いと斷言し得るのである。

### ◇戰時財政毫も憂ひなし

皇軍は連戦連捷、破竹の勢を以て猛進して居る、南京方面は地勢の關係上長期戦となり、急進的には行か無ければ共是として時間の問題である、支那の傲語した長期抗戦等は痴人の夢であつて、到底長年月を持出し得ない事は今や着々種々な現象が示して居る、我戦勝の効果を抑制しやう等と云ふ英國等の策動も到底嚴然たる我國の態度の前には三文の價値も無い處である、従つて我國の大捷は決定的のものであるが、我が國民が一抹の不安を抱いて居るのは、戰時財政の問題である、即ち戰時財政とは一言にして云へば物資の總動員であつて、物資の不足と充實とは近代戦争に於ては最終の戦局を支配するものである、歐洲大戦中英國は物資の中でも最も食糧品の不足に悩んだ、獨逸の潜水艦がもう一層活躍したならば英國は遂に降伏したであらうと思ふ、獨逸の如きは最も食糧品の不足に苦しんだのであつて、獨逸の内部崩壊も畢竟食糧品の不足が重大なる原因を爲して居る事は顯著なる事實である。戰時財政が物資財政とすれば

ば其一は食糧の充實で無ければならないのである。

翻つて我國の食糧品關係を見れば、英國や獨逸とは著しい相違點を發見する、主食たる米は需要にあり餘つて居る、副食物としてバターやチーズが無くとも毫も差支へ無い、主たる副食物は魚類、野菜であつて是又毫も不足を感じ無いのである、牛肉類は如何かと云へば、從來滿洲、蒙古、山東省より輸入を仰いで居たのであるが、滿洲は内地同様の關係にあり、蒙古、山東省は何れも占領地域又は占領せんとする地域であつて、正貨で支拂の要無く、朝鮮銀行券で購入し得らるゝのであるから此一點だけでも既に充分に恵まれて居るのである、海外貿易に於ては増加こそして居るけれども、減少はして居らぬ、只だ中支、南支方面の貿易は激減して居る、然し乍ら我軍が北支より中支に向つて進出すればする程、占領地域が擴大して行く、其占領地域の秩序が恢復されるに従つて、我が物資が進出する事は、北京、天津地方に於て目前必要な物資が取引され出した事に依つて極めて明瞭である。故に中南支に於て失つた貿易は北支に於て恢復する事が極めて可能であるから對支貿易は毫も悲觀するの必要が無いのである。

本年度の貿易は莫大なる軍需品の輸入に依つて、大體六億圓内外の入超に終る見込である、

斯の如き巨額なる入超は勢ひ正貨の流出となり、對外爲替決済が不圓滑となれば對英一志二片を維持する事が困難であると云ふので、極力輸入を抑壓する爲めに、貿易の統制を行つて或種の物資には輸入の制限さへ加へて居るのであるが、輸入制限に依つて抑制せられる額は大體二億圓内外と見られて居る、若し假りに明年度の貿易が本年度と同様の状態に居るものとせば、輸入統制に依つて入超額は大體四億圓内外であらうと思ふ、政府は四億圓内外の入超ならば、國內約二億圓の産金と、海外受取勘定とによつて、對外支拂ひに差支へ無いと見て居る様である、若し左様に行けば毫も憂ひは無いが、若し萬一其れ以上入超が増加すると假定しても、敢て心配の必要は無いと思ふ、それは實に北支の棉花の問題である。

前の記事にある様に、北支の河北、山東、山西、三省と河南、安徽の二省は支那に於ける棉花の最大産地であつて、是等の地域は皇軍の占領地域若くは占領せられんとする地方であつて、此方面より棉花を取入れるとすれば、大體三、四億圓の棉花が得らるゝ譯である、最近河北省の餘剩棉花約八千五百萬圓が日本の物資と物々交換の形式に依つて取引交渉が進んで居る如く、上海並に附近の紡績會社が殆んど運轉を休止して居り、或は戦争の爲めに賣口が杜絶した

結果、農民は棉花を物資に換へる事が出來ずに非常な困難を感じて居るのであるから、河北の外各省の棉花が日本の手中に續々這入るものと見て差支へ無い。若し左様な事になれば、棉花に對する對外拂は甚だしく減少するから、對外爲替に就いては心配する必要があるまいと思はれるのである。次は戦費の問題であるが、今回支那事變費と二十五億圓の公債を發行する事となつたが、最近迄支拂つた金額は僅に四億圓内外と云ふ事であつて、從來の貯藏品を使用して居る結果、案外現金拂が尠いが、今後戦局が擴大して、新に軍需品の巨額なる補充を要すれば、戦費も益々増大するであらうが、戦局の急速なる發展に依つて案外豫算も小額で済むものと見られる様になつたのである、と同時に戦局も最早や前途の見透しは附いて來たのであるから此點も大して心配は無い。萬一戦局が永引いたにせよ、前にも云ふた様に對外爲替も確實に維持が出来る様であるから、戦費の支辨には左して苦しまないであらうと思ふ、日露戦争に於ける戦費は約二ヶ年に亘つて内國債だけで約十四億圓であつた、工業の極めて幼稚な時代であつたから、兵器彈藥の如き軍需品は大部分海外から輸入を仰いだのであるが、其當時と現今とを比較すると、國民の預金、税金、會社の資本、所得、貿易、手形交換高等に於ても大體十七

八倍乃至二十倍に達して居る、假りに是等の數字を信用すべきものとすれば、我國富は日露戰爭當時に比較して約二十倍に増大したと云ふ事が出来るのである。従つて此方式に依つて打算すれば、日露戰爭の二ケ年間に發行した内國債十四億の二十倍、即ち二百八十億圓の内國債を發行する事が出来る勘定であつて、假りに最少限度の安全點を執つても百億圓位の支辨は毫も差支へないと見られて居るのであつて、此點は大に安心して可なりと斷言するのである。

### ◇支那事變にインフレーション

戰爭は偉大なる物資の消費行爲である、日露戰爭に於て、我軍の全戰役間に發射した砲彈は實に百萬發であつた、然し乍ら歐洲大戰當時英軍がソナムの戰に於て、僅か數日間に發射した砲彈は、我軍が日露戰役間に發射した百萬發の約十倍、即ち壹千萬發の砲彈を射つたのである、假りに一發平均四十圓とすれば驚く勿れ僅か數日間に四億圓の砲彈を消費した勘定であつて、近代戰が如何に軍需物資の消費戰である事が分るであらう、従つて戰費が膨大する事は、

千八百年時代の戰爭に比し、全然桁違ひと云はなければならぬのである。今回の事變に於ては上海方面にこそ多數の砲彈や爆彈を消費して居るものゝ、北支那方面にては、陣地戰でない丈に比較的物資の消費は多くはない、又今日迄の軍需品は從來よりの貯藏品が多いから國內の物資が軍需用品として吸収されて居るのは割合に少額であらうと考へる。

然し今後戦局が益々擴大して來ると、軍需品としての物資の吸収が愈々激しくなり物價は需給の原則上から當然騰貴を來さざるを得ないのである。否既に兵役應召の爲め労働者の不足から労働賃金の騰貴となり惹いては物價も幾分騰貴を來して居るし、就中衛生材料、肉類等々何れも相當騰貴した。然し是等はインフレーション等と稱する性質の者で無いが、今後軍事費の二十五億圓が民間に全部散布される事になると、如何に政府が民間に此散布された金を吸収して再び公債資金に還元しやうと思つても、大部分の回収は困難であつて、相當巨額の金が民間に潜行流通するものと思はなければならない、其處に於て物資の不足と、通貨膨脹は當然インフレーションを惹き起す事になるのであるが、インフレーションと云つても、無論獨逸に起つた様なもので無く、日清戰役や、日露戰爭中に起つたものより聊か高度のものであらうが、是

れ位の程度のものならば何も恐れる必要は毫も無い、寧ろ戦争景氣として、一般に歓迎されるに至るであらうと思ふ。

支那の長期抗戦が有ゆる方面から破綻を暴露し、此儘で進んだならば國民政府は根底から崩壊せざるを得ない事は、日本人よりも支那の要人の方がよく承知して居る處であつて、日支事變も前途の見透しは略々付いて居る、上海に於ける支那通の松井大將が和平近きに在りと云つて居るのは流石に炯眼だと感心させられる、日支事變目出度終了したとしても、北支の經濟開發と云ふ重大なる問題が残されて居り、之が開發には數十億圓と云ふ巨額を要する、然し乍ら北支の開發は我國の不足資源を充足し、猶且つ我が貿易の輸出を促進する我財界に執つては最も喜ぶ可き事象であるから、財界に絶大なる好刺戟を與ふるは勿論であり、殊に事變に消費せる軍需品の補充、或は事變従事者の行賞等引續き莫大なる金額が民間に撒布せらるゝ事となり多大の購買力を與へ、事變中極度に消費節約を行つた反動として、物資の需要は大に増加し日清、日露戦役にも劣らざる一大好景氣時代を出現する事は極めて當然で無ければならないのである。

### ◇戦争ミインフレーションと財産

戦争は大なり小なりインフレーションを出現する、物資の不足と通貨の膨脹が二重の作働を行つて物價を騰貴せしめる、物價の騰貴は貨幣價值の下落である、貨幣價值の下落は銀行預金等の利息生活者、及び一定限度の收入範圍に依る恩給生活者の最も苦しむ處である。

預金の利息に依つて裕に生活し得られた利息生活者も、物價が騰貴し貨幣價值が暴落するに於ては、遂に元金に手を付けざるを得ない、恩給生活者の如き他に餘裕なき限り遂に赤字を出さざるを得ない、歐洲戦亂後佛蘭西が正貨政策上、金の輸出禁止を頑として斷行せず、四苦八苦したのも、貨幣價值の下落に依つて、佛蘭西に最も多い多數の利息生活者に對し甚大なる考慮を拂つたからである、凡そ利息生活者程消極的な存在は無い、彼等は物價の騰貴もインフレーションも殆んど風馬牛の如き觀がある、物價騰貴に依る生活費が膨脹して、遂に元金に手を付け、追々殘高の減少するを見ても如何共する事の出来ない様な人々が多いのである、要する

に斯くの如き時代に於ては自衛上、當然金を物に換へる事である、然し物と云つても範圍は極めて廣い、株式、土地、山林、商品等恐らくは數十種、數百種類に達する、然し斯くも多數の種類を選定する事は容易で無く、又不可能である、金を物に換へても、更に今度は物を金に換へる事が甚だ困難である、要は利益があり、更に何時でも再び金に換へらる可き性質のものでなければならぬ。

インフレーション時代は産業の全盛時代である、小規模の産業は勿論大産業に至ては尙更ら然りである、貯藏原料の騰貴、製品の急進的騰貴、製造販賣の激増等々である、従つて是等の工業會社(事業會社も含む)の利益は激増し、株主に對する配當は増加し、株主は所有株式の値上りと二重の恩澤に浴するのである、若し極めて良好な時機に株式に投資し、數年間の好況インフレーション時代に利益を受け、數年後の反動時代に之を轉賣して、元の金に換へ得られる事が出来れば、是れこそ換物、換金、資金運用の極致であらう、只だ是には勇氣と經驗を要する、今や徐々にインフレーション時代に入らんとしつゝある、此際に於ては特に注意が必要である。

### ◇戦争とインフレーションと株式

インフレーションと云ふ言葉を非常に嫌ふ人が甚だ多い様であるが、特に〇〇〇〇〇〇方面に多い、是は獨逸が歐洲大戰後未曾有の大インフレーションに依つて國家の財政が根本的に破綻を來した事から、インフレーションと言ふ言葉が直ちに財政の破綻と云ふ意味に取入れられると考へるからであらう、然し我々の言ふインフレーションは這意味のインフレーションではない、我々は戦争に依る巨額なる物資の消費に伴ふ必然的物價の騰貴、通貨膨脹に原因する常道的物價の騰貴等を指して謂ふのであつて、所謂軽い意味のインフレーションである、日清戦争後に於ても、日露戦争後に於ても、將又歐洲大戰中の如きは所謂インフレーション時代を出現したのである、又此インフレーション時代があればこそ物價の騰貴に依る産業の發達、農産物の騰貴に依る農村の繁榮時代が來るのであるから或る程度のインフレーション時代は寧ろ歓迎すべきであらうと思ふ。



濱口内閣時代のデフレーション政策が、如何に慘憺たる影響を國民に與へたかは今以て忘れ得ざる處である。滿洲事變後以來金の輸出禁止と豫算の膨脹、軍備擴張に伴ふ軍需工業の擴充一般産業の振興等インフレーションに依つて我が財界は著しく好轉した。日支事變は當然滿洲事變の如くインフレーション時代を出現する然し我皇軍が連戦、連勝して居るに拘はらず、財界が稍沈滞の傾向にあるのは、畢竟戦争の前途見透しが困難なる事、或は〇〇或は〇〇と迄戦争が發展しはせぬかと云ふ杞憂、第三國の干渉更に戦費の増大に伴ふ巨額の増税等々何時も戦争に付きものゝ危険觀、警戒觀等が作用するからであつて、今後戦局が着々として有利に展開し、國民の杞憂する第三國の武力干渉がなく、更に戦局が支那對手のみに局限される事とならば、其時こそ國民の警戒心が消散し、更に戦後の復興北支開發等に投ぜられる莫大なる資本の活躍並に北支物資の開發利用に依る我が財界の好況等即ち國運の飛躍的大發展を豫想歡迎するの氣分は益々濃厚となり、財界も危険信號も撤して安全信號を掲げ一躍インフレーション好況時代を出現する事は疑ひ無き處である、従つて、此財界好況時代に先驅する株式相場は猛然として躍進を示す事となるであらう事は過去の戦役に徴して極めて明白なる事實である。

### ◇日清戦争と株式相場

日清戦争は明治廿五六年頃から清國と一戦の止むなき事は既に政府も、國民もよく承知して居つた、然し乍ら世界列強と雖も支那を寝むれる獅子として、恐れて居つた處であり、我國としても對手が世界の大国であるから非常に危惧して居つた。従つて仲々勝算歴々と云ふ譯には行かなかつた。戦争の前年から株式は漸次低落の一步を辿り、遂に開戦の翌月明治廿七年八月には完全に底入れとなつた。此時東株は最低安値百八十九圓五十八錢に落込んだが、爾來皇軍の連戦連勝に伴ひ漸やく騰貴の方向を辿つた、尤も途中一高一低を繰り返し、殊に三國干渉等に依る波瀾は有つたものゝ、二十八年四月に講和條約が締結されて、二億圓の莫大なる償金を取る事となつたので諸株一齊に暴騰し、東株は二十八年一月から同年十二月迄の間に於て實に三百九十四圓十錢の大躍騰を見るに至つたのである。

## ◇日露戦争と株式相場

日露戦争は實に我國が國運を賭して闘つた悲壯なる戦争であつた、當時我國は國力も弱小であり日清戦争に於ては連戦連勝したものゝ、當時の帝政露西亞は世界列強より恐れられたる最強大陸軍國であつたから、必勝を期する事は寧ろ困難であつたと云ふ位であつた。

開戦の前年、明治三十六年八月頃より、早くも我國は戦争の準備に着手し、國內の物情騒然たるものがあつたので、株式は日清戦役の場合と同様漸次低落の一途を辿り、三十六年二月六日露國に對し最後通牒を發してから、諸株式は一齊に暴落したのは、日清戦争の場合と同様であつたが、日清戦争の場合とは稍々輕微であつた。然し此時東株は百三十六圓六十錢と云ふ安値であつた。

日露戦争と日清戦争時代を比較すると其處には非常な相違が見出されるのである、日清戦争時代は我國の經濟界は未だ封建時代の殻を脱しない、極めて幼稚な時代であつた、然し乍ら日

露戦争時代は漸く資本主義の段階に入つた時代であり、經濟機構に於ても相當複雑性を持つて居つたので、政府も相當戰時態制に就て考慮しなければならなかつたのであるが、之等の注意が行はれず、相當缺陷もあつた、最も其甚だしきは財界の統制が旨く行かなかつた事で、開戦後の六月に百三十銀行の休業事件が発生し、金融界の混亂に伴ひ、金利が甚しく騰貴し、加之増税が頻々として行はれた結果、財界の動搖は相當甚大であつた。然し外債方面では九億圓も輸入に成功したので、彼是相當の緩和が行はれたのである。然し乍ら連戦連勝とは云ふものゝ、世界の強露が對手であり、彼の退却戦法には我軍も相當奔命に疲れたし、旅順口が容易に陥落しないので株式の恢復も捗々しくなかつた、然し三十八年五月二十八日、日本海に於けるバルチック艦隊を全滅してから、我國の勝利が徹底的であるとの確信から百七十圓の東株が六月に至り、一ヶ月間に於て、二百七十圓と實に百圓の暴騰を來したのである。

講和談判は我國民の期待に反し償金は一文も取れず、樺太の一半を得たのみであり、而も二十數億と云ふ巨額の内外債を背負つた結果から國民は著しく失望し、日比谷の燒討事件が惹起した、然し乍ら冷靜に立返ると、今度は戦後の財界の發展、我が産業の發達、及び戦後の一般

好況を豫想して、株式は次第に騰貴を來し、三十八年五月廿七日の日本海大勝より十九ヶ月目の明治四十年一月には東株は實に七百八十圓と云ふ未曾有の高値に躍進したのであつて、開戦當時の百三十六圓に比較すれば六百四十四圓の大暴騰で株式市場空前の記録を作つたものであり、大小株式成金は到る處にウヨ／＼して居つたのであつた。

### ◇歐洲戦争と株式市場

歐洲大戰に於ける我國の立場は、日清や日露戦争と比較して、著しく立場を異にし、我國は日英同盟の情誼によつて、青島に於ける獨逸軍を攻撃し、或は我海軍は遠く艦隊を地中海に派遣し、聯合國側の作戰を援けたけれ共、是とて大規模のものでなく、大體に於て中立國の状態であつた。然し歐洲大戰が勃發すると、何と云つても前古未曾有の大戦であり、戦局の見透しは殆んど不可能であつたのと、此大戰が世界各國の經濟界に及ぼす影響は圖る可からざる至重至大のものであつたから、獨逸は勿論英國、佛國、米國等其他各國に於ける財界の混亂は甚だしいものがあつた。

我國も世界戦争に依る各國財界混亂の影響をうけ、殊に北濱銀行の破綻は株式市場に甚大の影響を與へ、一齊に大暴落を來した、然し乍ら戦争勃發の翌月は稍々人氣も落付き東株、鐘紡等各々二十圓内外其他産業株も相當の引返しを見るに至つた。然し是等は寧ろ相場の行過ぎに對する訂正相場であつて、戦争勃發の大正三年中は所謂待機相場とも稱すべき保合相場で終始した。

大正四年に這入ると戦局の終息が容易で無いとの見透しと、交戦各國が何れも大規模の動員を行つたのと、戦線の擴大に依つて軍需品の消耗は世界の戦史上未曾有の莫大なる數量に上り、交戦各國は是等の夥たしき軍需用品を自給する事が甚だ困難となり、交戦國以外の各國に對して、競つて注文を發する様になり我國に於ても到底供給に應じ切れない様な兵器特殊軍需品の巨額の注文が續々として入込んだのである。此の結果として是等の好影響をうけた各會社の株式は先づ將來の利益及び配當の増加を豫期して漸次騰貴を來すに至つた。次いで交戦各國の製産激減及び輸出不能に依る綿製品雜貨の如き補給が米國及び我國に向け

られた結果として、紡績紡織其他一般輸出品の製産株が騰貴するに至つて、遂に株式の騰貴は軒並の一齊高に移行するに及んだのであるが、東株は開戦後一年六ヶ月目の大正四年の暮には三百九十四九十錢の高値に進み、大正五年の十二月には四百八十圓、九年の三月には五百四十九圓九十錢の高値に躍進し、日露戦争以後の記録的跳躍振りを發揮したのである。

綿業を代表とする鐘初株の如きは開戦當初の大正三年末には、僅に百圓内外を上下して居つたものが、大正四年末には百六十四圓、五年の十二月には二百九十圓、六年七月には三百二十四九十錢と暴騰を見るに至つたのである。

斯の如く歐洲大戦は我國の産業貿易に好影響を與へ、巨額の正貨が流入し、通貨は自然急激なる膨脹を來たした結果、政府は過當なる通貨の膨脹を抑制する爲に、内國債を發行して、流通々貨を吸収に努めたけれ共、到底豫期の効果を擧ぐる事が出來ずに、インフレーションを現出し、我が國未曾有の好景氣時代を見るに至つたのである。

### ◇戦争と株式相場の歩み

日清戦役と云ひ、日露戦争、歐洲戦争等何れも過去の戦役は我財界に非常に好影響を與へ所謂戦後の株式大相場時代を出現したのであるが、然し開戦當初に於ては株式相場は過去盡く一様に暴落し、六ヶ月乃至十ヶ月を経過して始めて恢復騰貴の傾向を示してゐるのである。是は要するに戦争は國家に執つては絶對的戦勝の確信が無い限り、尤も其様な絶對的勝利を確信し得る様な戦争は滅多に有るものではないが、非常なる冒險である、故にイザ開戦となれば、戦争に對する危惧心から株式が一齊に暴落するのは寧ろ當然であつて、過去の日清、日露、歐洲戦争開戦當初の經驗に徴して顯著なる事實である。

何れの國に於ても戦争は緒戦が最も大切である、此緒戦に勝利を得る事は其國民をして愈々戦争に對する確信を有せしめ、大に勇氣を鼓舞する事となり、其人心に影響する處云ひ知れぬものがあるのである、故に日露戦争は於ては我參謀本部は鴨綠江に於て、如何にして勝利を得

可きかに付いて苦心慘憺たるものがあつた。緒戦に勝利を得ると株式相場は開戦當初の暴落、所謂危惧相場から一轉して、多少安定的な希望が生じて、茲に戦争危惧の相場から一轉して、行過ぎ訂正の相場が現はれる事は過去の戦争當初に於て、殆んど符節を合はすが如く、一樣の経路を辿り相當の騰貴を來すのが例となつて居る。今回の上海陥落に依る株式市場は是例に漏れず、上海陥落前百四十圓搦みの東株が一躍百五十圓臺に奔騰したのは之を前途の安心買と稱す可きでなく、過去の例の如く行過ぎ相場の訂正相場と云ふ可きであらう。

行過ぎ相場の訂正相場が一巡すると、株式相場は大體に於て相當期間高低區々の保合相場が持續されるのが實例である。是は要するに次回の戦局が如何に發展するか、其戦局が假令我軍の決定戦勝を確信し得らるゝにしても、次回の戦局が果して、媾和に入る可き戦勝であるか、或は更に戦役が延長される様な事となつて、軍事費の膨脹に伴ふ増税、或は日清戦役以來我國民が赫々たる戦勝を得ながら常に第三國干涉のために苦、體験を嘗めた關係から、未だ容易に樂觀を期待し得ないのである、即ち滿洲事變の國際聯盟の如き將又今事變に於ける米國及び英國の行動九國條約會議等我に斷乎たる決意さへあれば、是を一蹴して強硬なる決意を貫

徹する事は容易であつても、更に其後に來る可き列國干涉等の不安の影象を勝手に頭に描いて居るが如き例である。

斯の如き現象は何れの戦役に於ても一定の型の如く見らるゝのであるが、然し乍ら此期間に於ては既に戦局の見透しも大體に於て相見せられ、増税の問題も、外交上の杞憂も有ゆる好材料、悪材料も總て織込まれて、戦争中の底値鍛練時代となつて、來る可き株式暴騰時代の前進根據地となる事は何れも過去の戦役相場が是を實證して居る處であつて、目下の株式相場も支那が徹底的な悲鳴を擧げ媾和問題が突發しない限り大體に於て相當期間の底値鍛練時代を送るものと見る可きであらう。

### ◇戦争と株式成金ロスチャイルドと鈴久

ウエリントンがウオタルローで佛軍と戦つて居る時倫敦の株式市場は英軍の形勢危しと見たか、相場は大暴落を來たして賣注文は殺到した、此中にあつて敢然として買向つたのがロスチ

ヤイルドであつた、彼は此時かう考へた、ウオタルローの戦争で英國が大敗するやうならばそれこそ英國が滅亡に類する時だ、國家の財政の破綻、勿論個人の財産と雖も恐らくは空になつて仕舞ふであらう、今や自分の財産の如きは殆んど問題とするに足らぬ、ヨシ英國と共に亡び英國と共に榮へんに如すと、そして彼は資力のあらん限りの買つて、買つて、買捲くつた、然し相場は暴落に次ぐに暴落を來たし最早や彼は支へ切れ無くなり、遂に投げ出さうと決心した。此時忽ちウオタルローに於て英軍が空前の太捷を博した電報が遣入つたので、株式相場に見る／＼内に暴騰を演じ彼は千載一遇の大相場に勝利を占め一躍して英國財閥の巨頭となつたのであるが、日露戦役に於ける株成金の鈴久も矢張りロスチャイルドと同じ様に日本の絶對的勝利を確信し、何處迄も強氣を以て一貫し、主力を鐘紡買に向けて買つて、買つて、買ひ捲つた。此時彼の利益は約八百萬圓に達したとの事であるが、當事の八百萬圓は恐らく今日の二三千萬圓にも相當するであらう、兎に角株式相場に大勝利を得んとせば堅固にして冷靜鐵の如き信念を要する、然し普通の凡人は常にグラツクのであつて、此の信念のグラツキ、何時、失敗せしめるのである。

然し彼のロスチャイルドの如く、英國と共に榮へ共に亡びんと云ふ様な信念ならば、敢てロスチャイルドに限らば共、日本人の中にも押し通せる人が澤山あらうと思ふ、今回の日支事變は我が國運が將に一大飛躍せんとする陣痛に過ぎ無いのであつて、半年か一年先には必然的に事實となつて現はれるのであるから、不動の信念を以て買進んだ人は必ず大勝利を獲る事が出来ると思ふ。勝利は要するに何れも信念と不斷の努力である。

### ◇大に株式に投資せよ

戦時に於て國家が最も努力を要するは財政、經濟の調整である、如何に武力が壓倒的勢力を有す、雖も、近代戦、如き莫大なる戦費を要する戦争に在りては、一國の財力、經濟力が決定的位置を占めるのであつて、政府が戦時態制に苦心慘憺たるのも理由は茲に在るのである。世間動らすれば戦時に於て、金儲けに熱中する事が恰も非國民たるが如き謬想に捉はれて、自然消極的となり。極端なる消費節約に奔る結果、甚しき不景氣に陥入るが如き、本末顛倒の結果

を見つゝあるは甚だ遺憾千萬である、日支事變以來極端なる消費節約の影響によつて、時局の好影響を蒙らざる地方の如きは甚だ不景氣に苦しんで居ると云ふ状態であるが、是等は誤れる消極的觀念の弊害に依ると云はなければならぬ。

我國の富力は總額は約千五百億圓と稱されて居る其内株式は約三百億圓即ち總富力の五分の一であるが、此株式の騰貴・低落とは金融市場に於ける大なる影響を與へるものである。假りに一割騰貴すれば三十億圓二割騰貴すれば約六十億圓と云ふ莫大なる融通力を與へるのである。株式が騰貴すれば取引所税及び株式移轉税、或は所得税の増加となつて國庫の收入を増加するのであるから、戦時の如き莫大なる費用を要する場合に於ては、尙更以て株式市場の適當なる繁榮を圖らなければならぬ。然し乍ら世間又戦時に於て株式に投資し利益を獲る事に専念するが如きは潔よしと仕無いと云ふ様な謬想に捉はれる人が随分多い様であるが、是れ誤れるの甚だしきものであつて、國民の富が取りも直さず國家の富である事を知らば、直に雲散霧消すべき爲である。今や我國は軍需品に其他重工業に於ても極度に製産能力を擴大せなければならぬ時である。此等部門の株式が騰貴すれば事業資金は自然豊富となり、製産力擴大に非

常なる貢獻を爲すのであるから株式投資は個人のみならず國家的にも大に必要であると言はなければならぬ。

### ◇ 戦勝相場は東株が最先驅である

日露戦争は日清戦争の決算であり、滿洲事變は日清、日露兩戦役の精算である。今回の日支事變は日清、日露、日獨戦争、滿洲事變の總決算とも云ふ可きであつて、過去數回に於ける我國の拂つた犠牲と損失は、有形であると無形であるにせよ當然、支拂ひをうくべきである。此點に於て今回の日支事變が我國に及ぼす政治上將又經濟上の影響は極めて重大であり猶且つ甚だ有利であると云はなければならぬのである。今や支那は心臓部の上海が陥落して一大打撃をうけ、獨逸のフォン、ゼークト將軍の指揮に依つて作つた最強の防禦地第二線も奪取され第三線の占據も目前に迫つて居るので非常に焦慮し、長期抗戰の絶對不可能なる事を悟り始めた、獨逸ヒットラーの日支調停等種々の報道がA・P通信社から放送されて居るのも、萬更ら無

積であるとは考へられないし、上海に於ける〇〇〇〇〇〇の運動が、日本側よりも支那側より放送されて居るのを見れば、日支事變は案外〇〇〇〇〇〇すると豫想することが出来る様になつて来たのは甚だ結構である。日支事變が終熄すれば、是は東亞の世界に於ける一大變化であつて事變後支那の資源開發等に數十億圓の資金がけせられ、場合に依つては米國の巨大な資本が我國の手を通じて投じられる事もあり得る事であり、我國は世界最強國として東亞に君臨する譯であるから、國威發揚、國力發展、我國經濟界大眼等所謂る事變終末後の歡迎相場は寧ろ空前、未曾有の大爆發相場を出現するものと考ふ可きであつて、戦後の大相場は東株が最先驅であり、又沸騰的人氣の最高峰であらう。玄人筋は戦後の東株相場を三百圓と見て居るやうであるが、イザ人氣が沸騰して來ると、這變戰爭最中の觀測などは寧ろ小心翼翼たる近視的觀測であつたと云ふ事々冷笑しつゝ或は最高五百圓位の相場を出すかも知れない、何れにせよ東株相場は上海陥落前に完全に底入れを遣つて居る。怎麼惡材料が出現しても彼の安値を割る様な事は絶対に無い日清日露戰爭の例を見れば一目瞭然である、何と云つても儲かるのは東株である、而も今一絶好の安値である、六ヶ月の辛抱が出来れば絶對的勝利を滿喫する事が出来る。

と思ふ。

### ◇事變後勃興する事業に儲かる株は何か

事變後勃興すべき事業は何かと云へば無論何人も重工業と答へるであらう、然り重工業の勃興である、今回の事變に依つて我國は東亞に於て絶對不可侵の最強的位置を占める事は間違ひ無い、然し第二の問題は陸に於て〇〇を海に於て〇〇を全然無力のものにして仕舞はなければ、我大陸政策及び太平洋の覇權を完全に掌握したとは云ひ得へない、蘇聯の〇〇〇〇が云ふ様、今度の支那事變こそ更に第二の〇〇〇〇で無ければならぬ、それが爲めには、石油液化、飛行機、自動車、機械工業等最精銳の化學兵器、化學工業藥品等は必然的に勃興するのである、斯る關係から考慮すれば機械工業株等は甚だ有利と斷言して宜いのである。

日立製作株 電氣機關車、エレベーター、ディーゼル自動車、特殊製鐵、鐵管等滿洲事變以來急速に發展し、晝夜全力を擧げて操業しても製産力が不足と稱されて居る位であつて、事變終



了後も愈々大發展すべき確實性を持つて居る資本金は一億壹千萬圓配當は一割二分であるが、増資も接近して居り今買つて置けば絶對的に儲かる株である。

**新潟鐵工株** 東京、長岡、新潟、柏崎に工場を持ち資本金は壹千萬圓、製作品はディーゼル機關、工作機械、車輛、造船、石油事業機械等であつて、滿洲事變以來軍需品其他一般註文品が殺到して居る狀況である、支那事變が終熄しても、其後は重工業の勃興に依り當社も飛躍的發展を來すべき運命にあり、殊に増資の時期が迫つて居るから今から買つて置けば儲かる事間違ひ無し配當は一割である。

**池貝鐵工株** 當社も重工業として將來最も發達すべき運命を持つて居る、製品は工作機械、發動機、自動車、ディーゼル機關、印刷機械等であるが、主として目下軍需品を製造して居る。配當は一割を行つて居るが買つて置けば必ず儲かる株である。

### ◇製鐵、造船、輕金屬株等は

買つて置けば必ず儲かる

今度の事變で最も不足したのは鐵である、尤も事變以前から甚だしく不足を來たし、外國より輸入する結果年々歳々海外に二億圓見當の支拂ひを行つて居つたのである、萬一外國から鐵の輸入が不足すれば戰爭を繼續出來ぬ様な状態にあるのは國防上由々敷大事であるから、事變後は朝野協力して鐵の増産を圖らなければならぬ、殊に事變後は重工業の勃興、軍需品の復活補充、事變中鐵の消費抑壓が反動的に需要の増加となり製鐵事業は益々盛んとなるから製鐵株は甚だ有利である、又アルミニウムも内地品は甚だ少量で不足を感じて居り、飛行機材料として不可欠のものであるし、事變後も飛行機其他軍需品の補充として莫大なる量を要するので、是等製造会社の株式は益々騰貴する、一朝停戦が行はれたら諸株式は一齊に暴騰するが、就中製鐵、造船、アルミ株は一層甚だしく好況を呈する買つて置けば必ず儲かるのである。

## 質問票

如何なる株式を買つて置けば儲かるか又何時買へば宜いか株式の調査や一切の御相談に應じます。  
本票切取封入の上御照會あれ。

經濟之日本社調査部

昭和十二年十一月廿五日印刷  
昭和十二年十一月三十日發行

【定價金拾錢】

東京市日本橋區兜町一丁目角ノビル

編輯兼發行人 平井光三郎

東京市本郷區湯島町三丁目六

印刷所 秀飯社印刷所

東京市日本橋區兜町一丁目角ノビル

發行所 經濟之日本社

電話茅場町二七九五番

創立二十年 株界の指針「經濟之日本」をお読み下さい

日清戦争、日露戦争、歐洲大戰、滿洲事變後は何れも事業の勃興と財界のインフレーションで株式投資は儲かつた、國民が富む事は國家が富む事で有る、株式が騰貴すれば國家の財力金融力は増大する、資金の有る人は株式に投資して成功せられよ、財力による銃後の守りは是れだ

◎月刊誌代 一部 三十錢 半年 一圓八十錢 一ケ年 三圓五十錢

終